

自生稚樹の確認調査結果について

1. 調査内容

正木峠南西斜面の森林後退箇所における自生稚樹の保護を目的として、稚樹の確認調査を実施した。
調査は平成 22 年 8 月 23、24 日に実施した。

2. 調査場所

調査を実施した範囲は以下の通り（図 1、2）

- ① 防鹿柵No.5 および 6 の大規模ササ刈り実施範囲
- ② 正木峠南西斜面の防鹿柵外の防鹿柵No.5, 6, 16 に囲まれた範囲

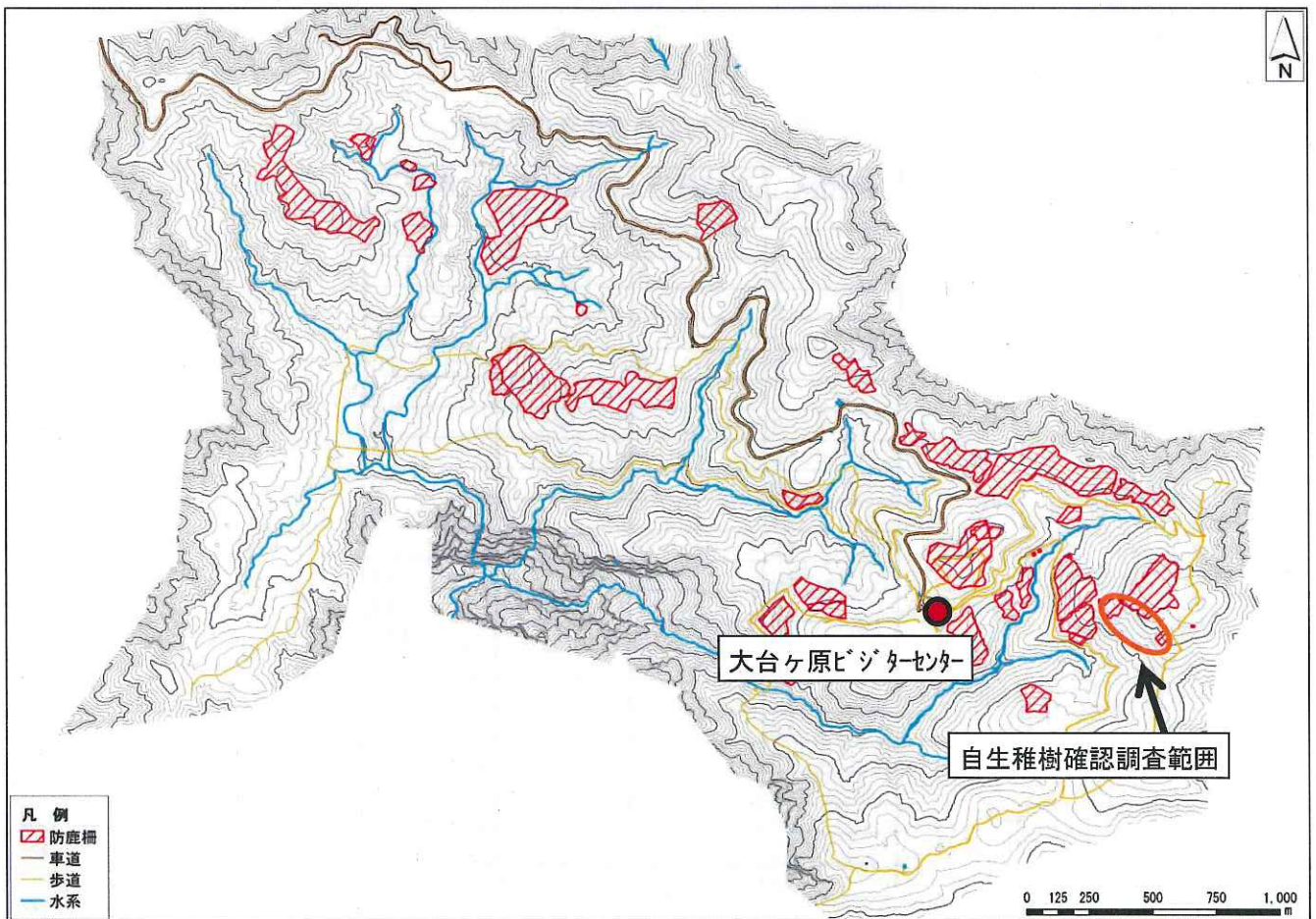


図 1 自生稚樹確認調査範囲

3. 調査対象

調査対象はトウヒ、ウラジロモミ等針葉樹の自生稚樹を主な対象種とし、柵内は樹高 50cm 以上、柵外は樹高 30cm 以上の個体を主な対象とした。

4. 調査結果

調査の結果、防鹿柵内 149 個体、防鹿柵外 460 個体、合計 609 個体の自生稚樹が確認された。

これらの確認稚樹には竹杭によりマーキングを実施し、大規模ササ刈りの際、損傷させないように配慮した。

(1) 区画別の自生稚樹確認数

調査範囲を 1～22 の区画に分け、区画別の自生稚樹確認数を図 2 および表 1 に示した。

防鹿柵内では No.6 の南西部、防鹿柵外では防鹿柵 No.5 と No.16 の間の岩礫地で多数の稚樹が確認された。

表 1 区画別の自生稚樹確認数

| 区画No. | No.5柵内 | No.6柵内 | 柵外 |
|-------|--------|--------|-----|
| 1 | - | 18 | - |
| 2 | 2 | 4 | - |
| 3 | 8 | - | - |
| 4 | - | 79 | - |
| 5 | - | 24 | 18 |
| 6 | 5 | - | 20 |
| 7 | - | - | 0 |
| 8 | - | - | 12 |
| 9 | - | - | 9 |
| 10 | - | - | 0 |
| 11 | - | 9 | 0 |
| 12 | - | - | 7 |
| 13 | - | - | 22 |
| 14 | - | - | 68 |
| 15 | - | - | 115 |
| 16 | - | - | 22 |
| 17 | - | - | 5 |
| 18 | - | - | 129 |
| 19 | - | - | 15 |
| 20 | - | - | 0 |
| 21 | - | - | 3 |
| 22 | - | - | 15 |
| 計 | 15 | 134 | 460 |

※ -は区画が含まれていないことを示す。

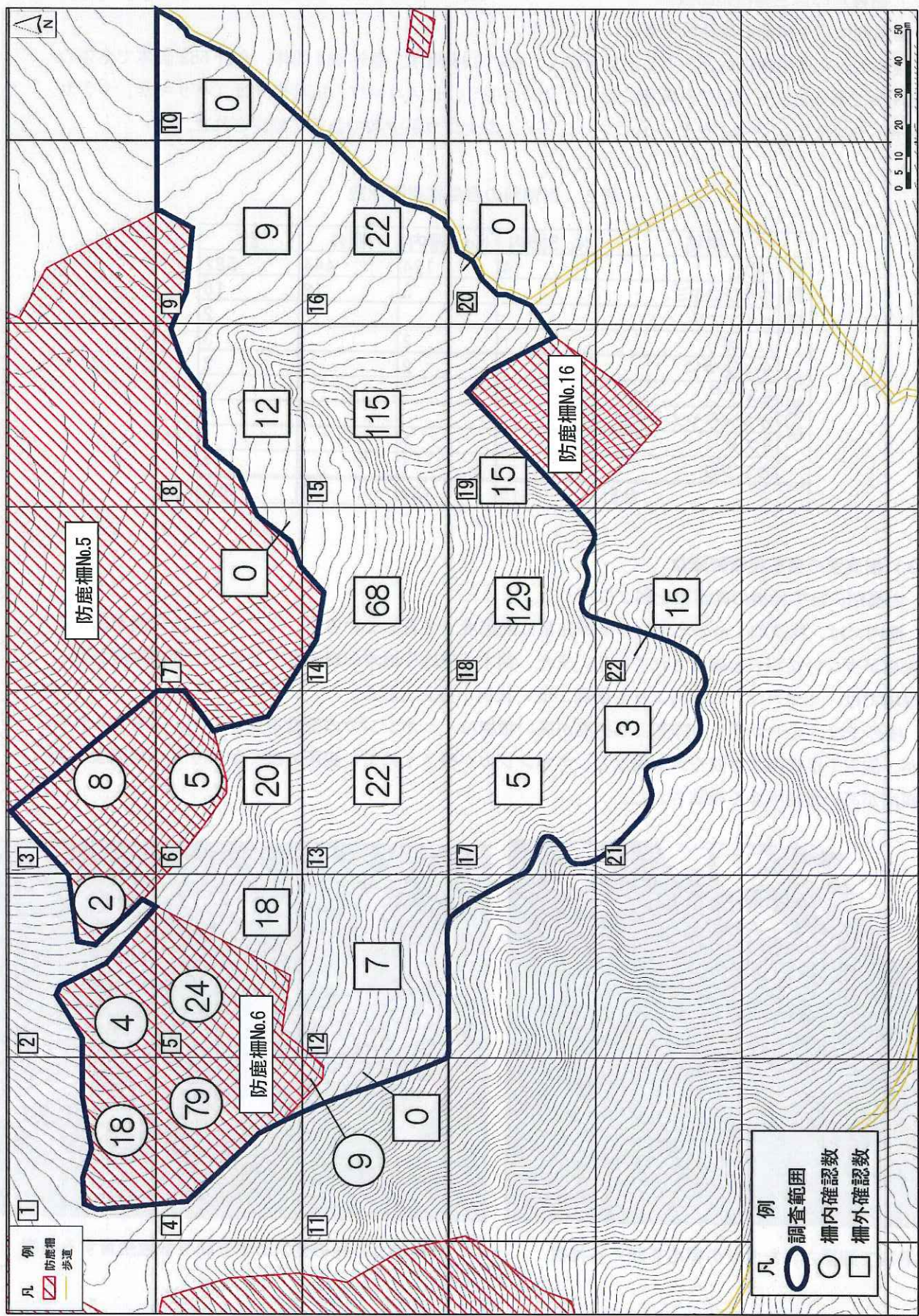


図2 調査範囲および区画別の自生稚樹確認数

(2) 樹種別の自生稚樹確認数

樹種別に自生稚樹の確認数を表2にまとめた。

確認された自生稚樹は、トウヒが最も多く、柵内 138 個体、柵外 444 個体、合計 582 個体で全体の 95.6%であった。その他、針葉樹では、ウラジロモミ、ヒメコマツ、広葉樹では、ハリギリ、ナナカマド、ミズナラ、オオイタヤメイゲツ、ミズメ、カマツカが少数であるが確認された。

表2 樹種別の自生稚樹確認数

| 樹種 | | No.5柵内 | No.6柵内 | 柵外 | 計 |
|-----|-----------|--------|--------|-----|-----|
| 針葉樹 | トウヒ | 14 | 124 | 444 | 582 |
| | ウラジロモミ | | 3 | 13 | 16 |
| | ヒメコマツ | | | 2 | 2 |
| 広葉樹 | ハリギリ | 1 | 2 | | 3 |
| | ナナカマド | | 2 | | 2 |
| | ミズナラ | | 1 | | 1 |
| | オオイタヤメイゲツ | | | 1 | 1 |
| | ミズメ | | 1 | | 1 |
| | カマツカ | | 1 | | 1 |
| 合計 | | 15 | 134 | 460 | 609 |

(3) 樹高別の自生稚樹確認数

樹高別の自生稚樹の確認数を図2に示した。

柵内では、稈高約1mのミヤコザサが非常に高密度で生育しているが、ミヤコザサの稈高を超える稚樹が少ないながらも確認されている。また、倒木・根株や樹木の根元などミヤコザサの密度が低い場所では、ミヤコザサの稈高よりも樹高が低い稚樹が確認された。

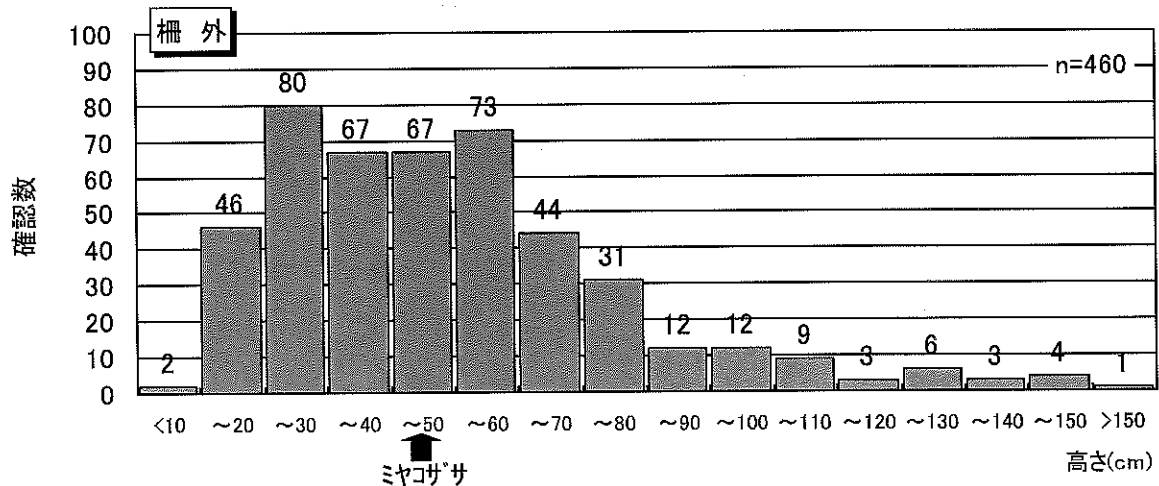
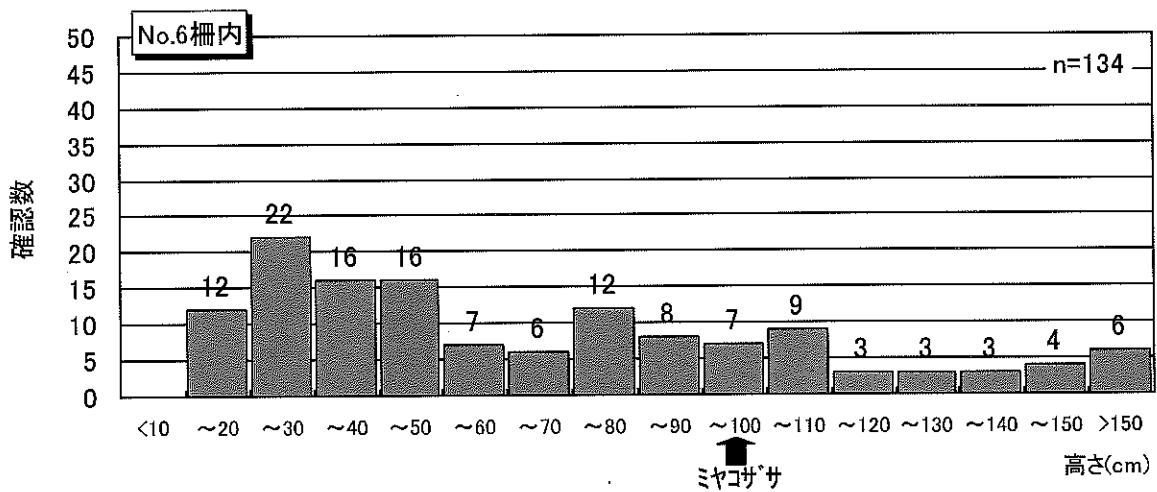
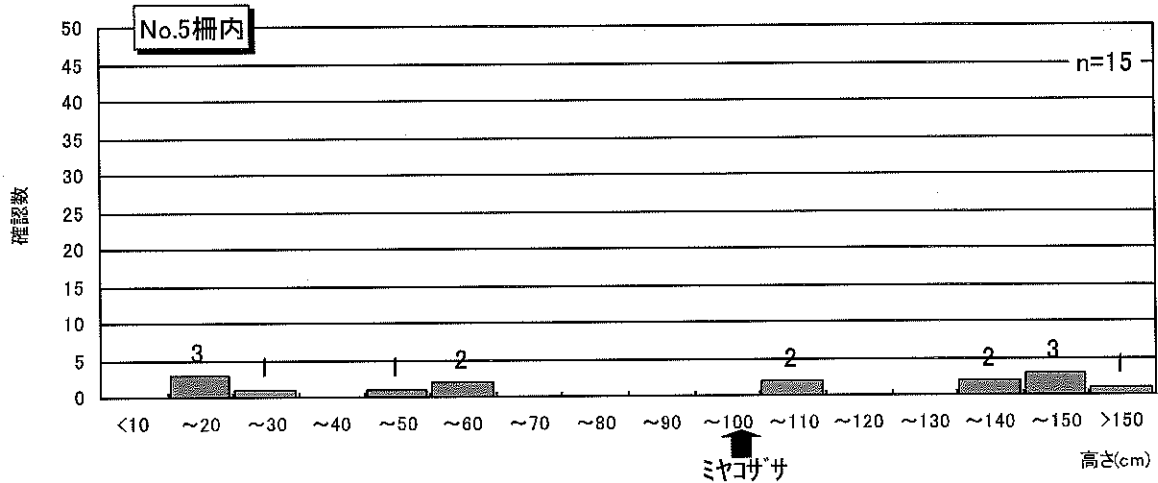
柵外では、ミヤコザサの稈高より樹高が高い稚樹は、ニホンジカの被食を受けやすいと考えられるが、倒木や根株のすき間やガレ場など、ニホンジカが侵入しにくい場所ではミヤコザサの稈高よりも樹高が高い稚樹も多く確認された。



柵内で確認されたササの稈高を超える稚樹



柵外のガレ地の倒木のすき間で多数生育する稚樹



※ ミヤコザサと示している矢印はその場所のミヤコザサの最大高を示す。

図2 樹高別の自生稚樹確認数

5. 今後の対応

柵内で確認された自生稚樹については、大規模ササ刈り試験により、周辺のササ刈りを実施する。柵外で確認された自生稚樹については、単木保護柵等の保全策について検討し、来年度以降に対策を実施する。